

みどりと生きるまちづくり Tokyo GREEN BIZ



東京の緑を

「まもる」「育てる」「活かす」取組

100年先を見据え、取組の輪を拡大し、東京の緑を未来へ継承

「まもる」取組

- 農地を守る
- 樹林地（屋敷林等）を守る
- 豊かな自然（保全地域等）を守る
- 森林（水道水源林等）を守る

「活かす」取組

- 自然が有する機能を活用する「グリーンインフラ」の導入
- 公園の魅力を高めTOKYOの顔に
- 豊かな自然を活用・発信
- 水辺に親しむ空間づくり
- 多摩産材の活用
- 緑の多様な価値を活かす



「育てる」取組

- 公園の整備
- まちのシンボルとなる緑豊かな空間の創出
- 街路樹の充実（安全性や快適性の確保）
- まちづくりに合わせた、まちなかの緑の創出
- 緑と水のネットワーク化
- 東京グリーンビズ・ムーブメントの推進

緑と水のネットワーク化



概要

公園や緑地などの整備に加え、道路や水辺などを活用したネットワークを形成することで、水と緑溢れる東京の実現に向け取組を進めています。



これまでの主な取組

公共空間等を活用した緑や水のネットワークを形成しています。



自然が有する機能を活用する「グリーンインフラ」の導入



概要

自然が有する機能を、豪雨や猛暑など激甚化・頻発化する自然災害への対応、生物多様性の保全・回復や都市の快適性の向上など、様々な社会課題の解決に活用するため、都有施設や民間施設等でのグリーンインフラの導入が求められています。

【グリーンインフラ】

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組
（出典）グリーンインフラ推進戦略2023（国土交通省）



水辺に親しむ空間づくり



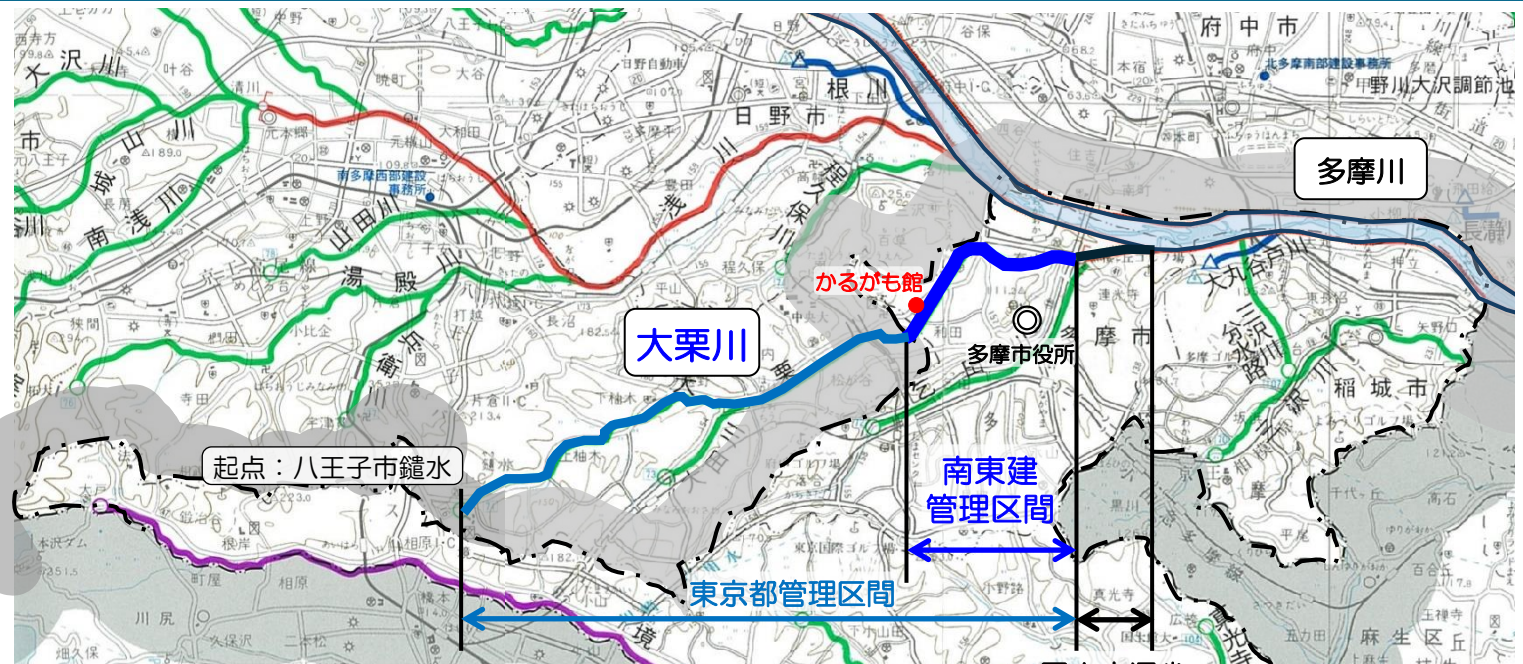
概要

気候変動の影響抑制や、ゆとりと潤いのある生活を実現するため、都市における水と緑の重要性はますます高まっています。公園や緑地など様々な緑を増やし、水辺を豊かにする空間づくりが重要です。



護岸のグリーン化のイメージ

大栗川について



- ✓ 延長約15.3km（南東建管理区間 3.2km）
- ✓ 流域面積42.6km²
- ✓ 多摩ニュータウン整備に合わせて蛇行した河川を改修し、現在の流路に
- ✓ 主な生物確認種（南東建管理区間）
 - 鳥類：カルガモ セグロセキレイ コサギ カワウ
カワセミ ヤマセミ など
 - 魚類：ウグイ オイカワ モツゴ コイ フナ
アブラハヤ ヨシノボリ ドジョウ など



大栗川の緑化について



護岸の老朽化



親水性に乏しい河川空間



護岸の損傷

整備後



緑化工事での取り組み

■ 護岸の緑化



堤防法面の緑化



植物の生育環境



植物・水生生物の生育環境

■ 親水空間の整備



遊歩道、スロープの整備



水辺空間の整備

緑化工事の前後比較

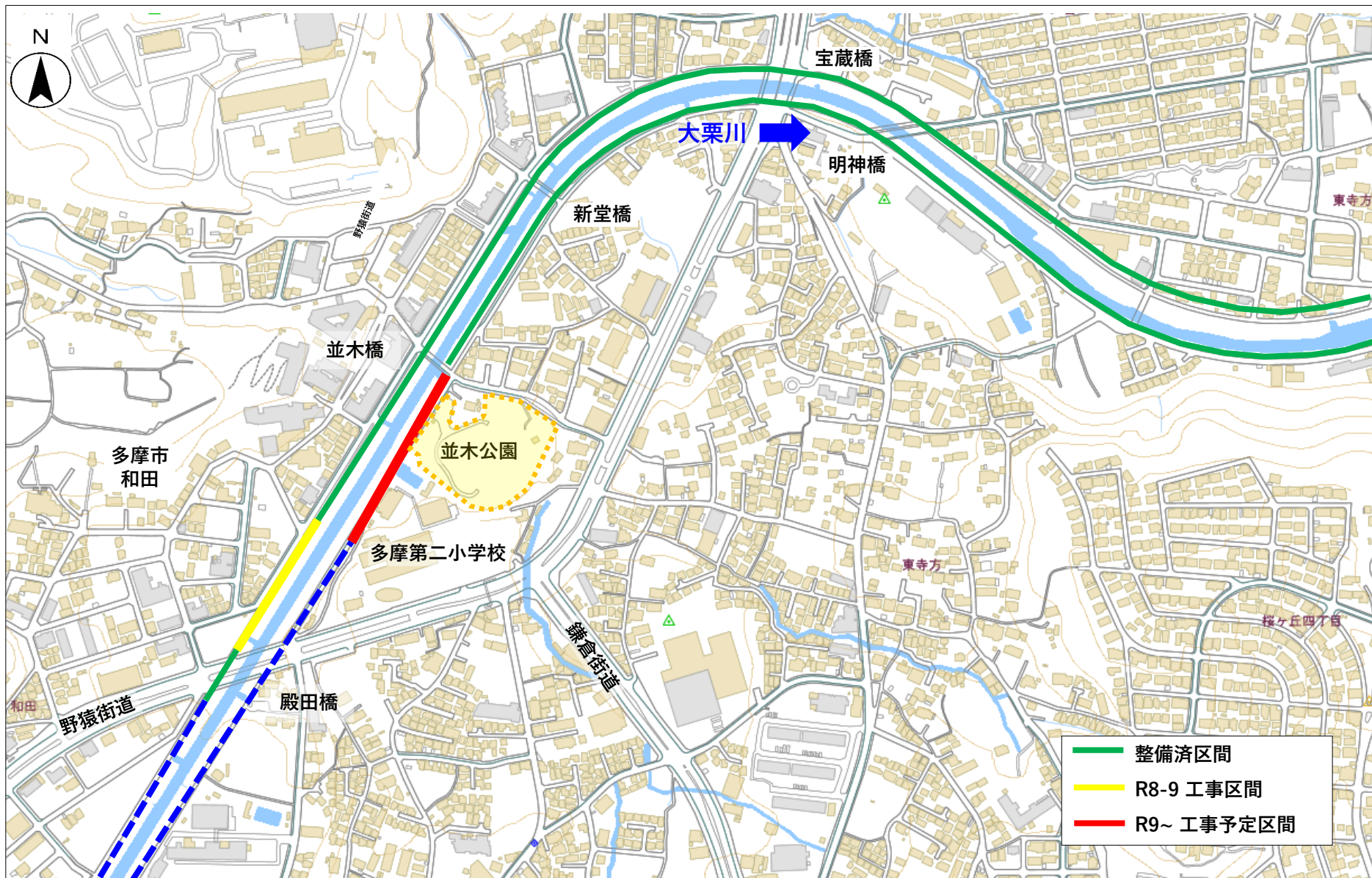
■明神橋下流（東寺方小学校付近）



■並木橋下流（並木公園付近）

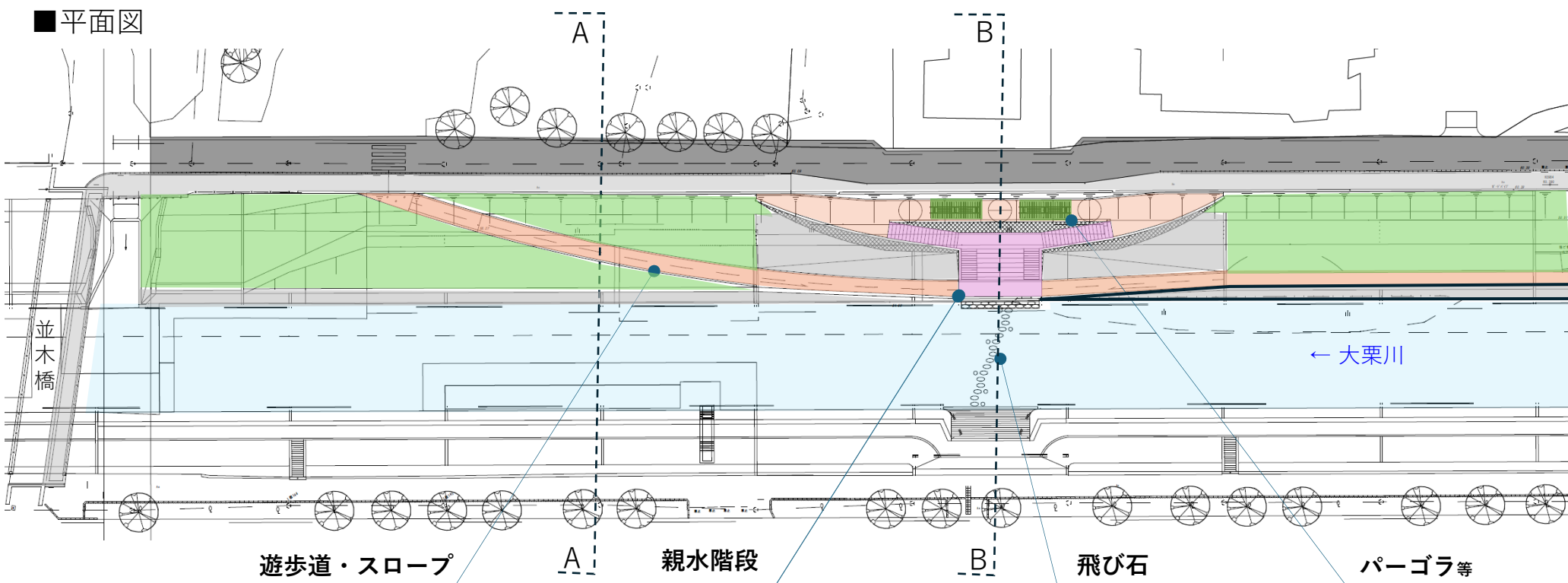


大栗川堤防緑化工事（整備状況）

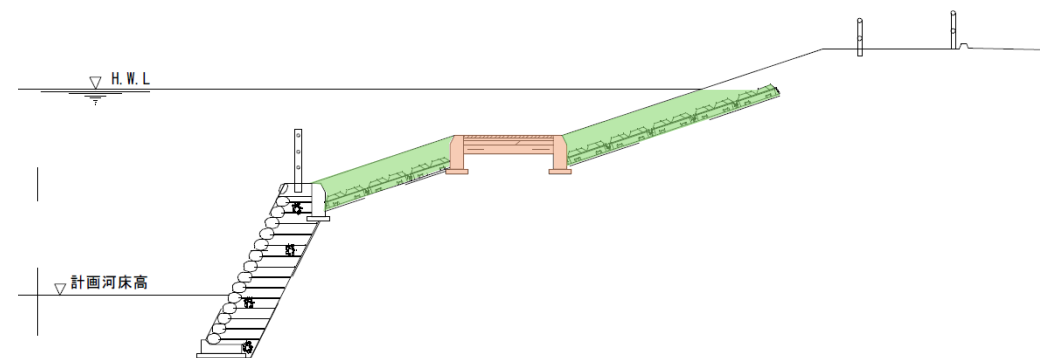


親水空間の整備について（案）

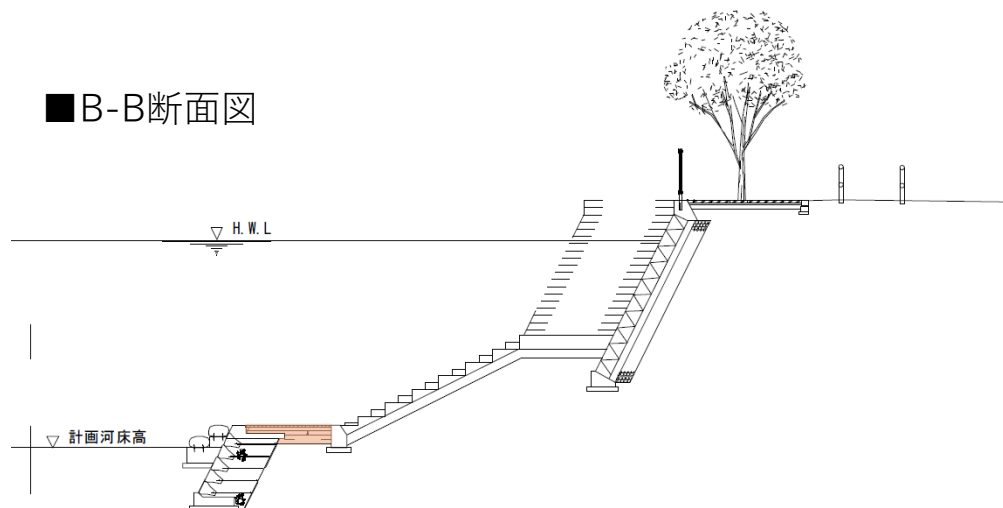
■平面図



■A-A断面図



■B-B断面図



親水空間の整備イメージ①



※ 現時点でのイメージであり、今後の検討で変更となる可能性があります。

親水空間の整備イメージ②



休憩施設の設置（日除け・ベンチ）

護岸の緑化

遊歩道・スロープの整備

親水護岸の整備

水際空間の創出



※ 現時点でのイメージであり、今後の検討で変更となる可能性があります。

休憩スペースについてご意見をお聞かせください。 (以下は整備メニューの一例です。他にもご提案などがあればお願いします。)

■樹木案 (パーゴラ 2 基、ベンチ 4 基、中木 3 本)

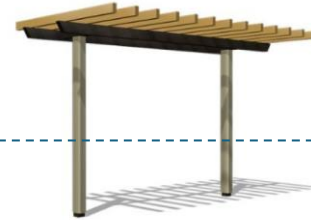
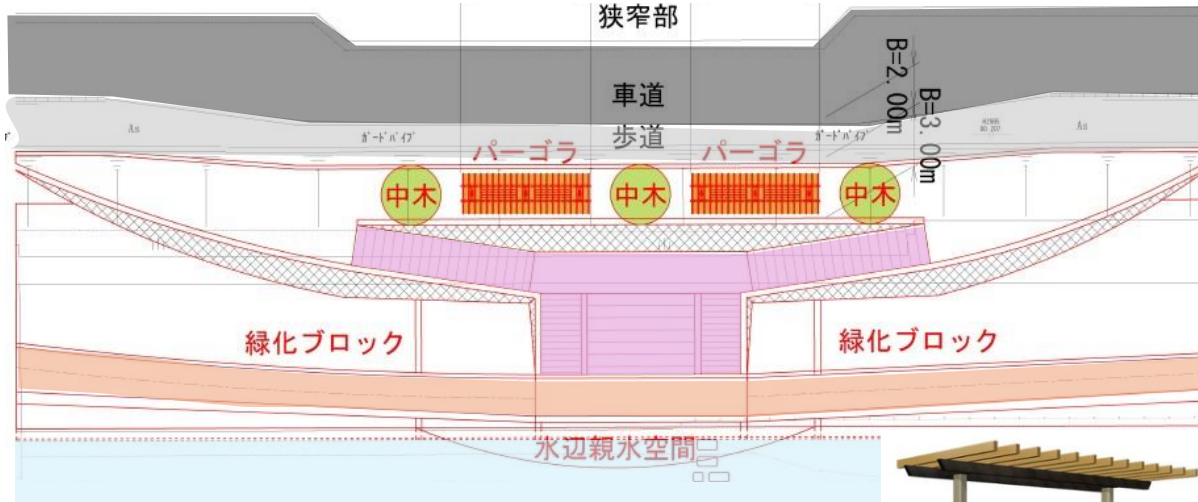


写真 3.4.17 パーゴライメージ

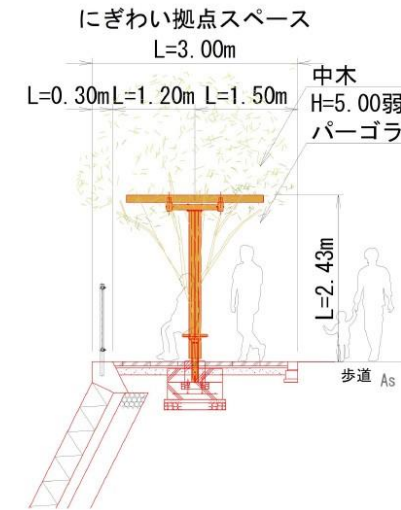
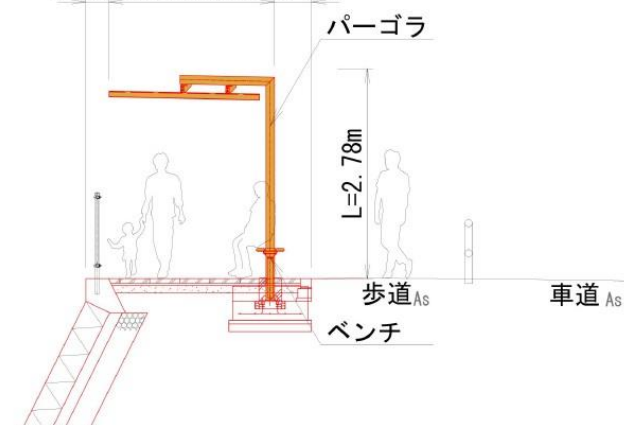


写真 3.4.18 ベンチイメージ

L=0.31m L=2.20m L=0.49m

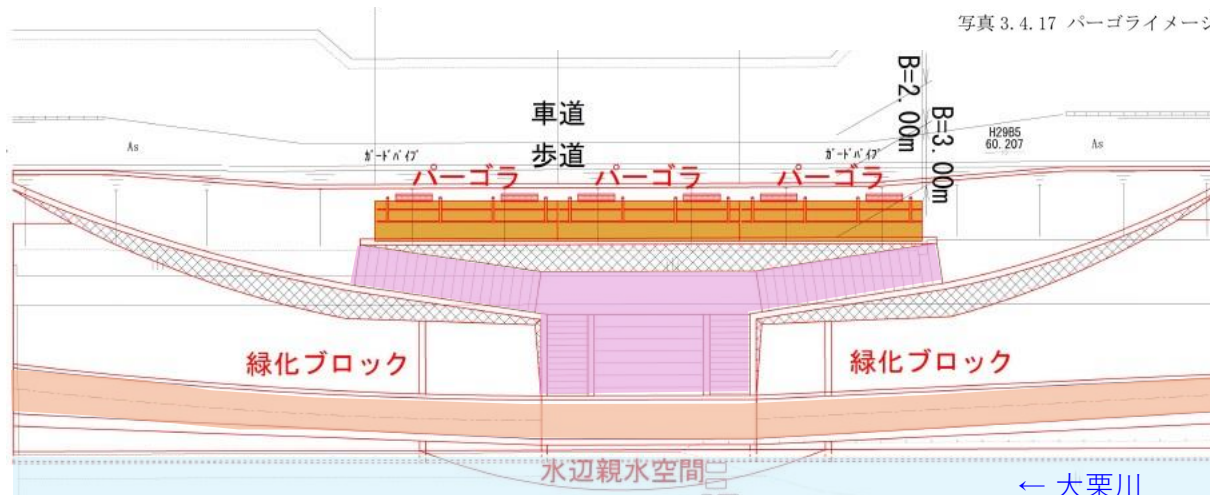


ハナミズキ



ヤマザクラ

■パーゴラ案 (パーゴラ 3 基、ベンチ 6 基)



← 大栗川